わかりづらい文 (2)

文の成分と係り受け

日本語の文は、**主**・**述**・**修飾**・**接続**・**独立**の5種類の文の成分が組み合わさって成り立っている。「何（だれ）が」「何を」「どうする」など、文の成分がどのように組み立てられているかを考えることで、文の意味を正確に理解することができる。

また、文を書くときは、主・述の関係や、修飾・被修飾の関係などの係り受けがきちんと対応しているか確認するとよい。

主・述の係り受けがおかしい文

主・述は文の成分の中でも文の構造の中心となるものである。主・述がうまく対応していないと、不自然な文になる。

（例）私の将来の夢は、国語の先生になって、言葉のおもしろさを伝えていきたいです。　→　×

※「夢は……伝えていきたい」と、主・述が対応していない。

私の将来の夢は、国語の先生になって、言葉のおもしろさを伝えていくことです。　→　○

係り受けや意味のまとまりが曖昧な文

主・述、修飾・被修飾といった係り受けや、意味のまとまりの切れ目がわかりづらいと、文が複数の意味に解釈できてしまうことがある。文の表す意味が明確になるように、修飾語の位置を変えたり、文を分けたりするとよい。また、読点を付けると意味のまとまりがはっきりすることがある。

（例）今朝畑でとれた野菜をサラダにした。

A　畑でとれたのが、今朝。

B　サラダにしたのが、今朝。

・文を分ける。修飾語の位置を変える。

A　今朝畑で野菜がとれた。それをサラダにした。

B　畑でとれた野菜を、今朝、サラダにした。

※修飾語（部）は、被修飾語（部）の直前に置くと、係り受けがわかりやすい。

・読点を付ける。

A　今朝畑でとれた野菜を、サラダにした。

B　今朝、畑でとれた野菜をサラダにした。

打ち消しの表現を含む文でも、表す意味が曖昧になる場合があるので、明確に伝わるように表現を工夫するとよい。

（例）私は彼女のように英語が得意ではない。

A　私は彼女と違って、英語が得意ではない。

B　私は彼女と同じく、英語が得意ではない。

確認テスト

(1) 例に従って、次の文に含まれる主語に＝線を、述語に――線を引きなさい。

(例) 鳥が　空を　飛ぶ。

形式に　注目すると、詩は　定型詩や　自由詩などに　分けられる。

(2) 例に従って、次の文の〰線部が修飾している文節に――線を引きなさい。

(例) 鳥が　空を　飛ぶ。

今朝、私は　山の　上で　美しい　朝日を　見た。

(3) 次の文の係り受けが正しくなるように、――線部を正しく直したものを選びなさい。

私の将来の目標は、人の役に立つ研究をしたいです。

ア　研究が目標です　　**イ**　研究が希望です

ウ　研究をすることです　　**エ**　研究を考えています

〔　　〕

(4) 次の文で、文節同士の係り受けがうまく対応していない箇所(かしょ)を選びなさい。

この学校を志望した理由は、自由な校風が理由です。

ア　「志望した」と「理由は」　　**イ**　「理由は」と「理由です」

〔　　〕

(5) （　）内の意味がはっきりするように、次の各文に読点をそれぞれ一つ付けなさい。

①私は　兄と　母に　相談した。（相談した相手は兄と母）

②先生は　うれしそうに　挙手した　生徒を　指名した。

（うれしそうなのは先生）